

「歯科技工業界の進化と歯科技工道」

西村好美

近年、社会においてはもちろんのこと、我々、歯科医療業界や歯科技工業界においてもデジタル化が進み補綴装置の製作方法や歯科器材など、大きな変換期を迎えています。しかし、いつの時代においても歯科技工士としての仕事の目的に変化はありません。

そこで今回は、私の歯科技工歴約40年の経験から医療現場で求められる歯科技工業界を多角的に捉え、過去・現在・そしてこれからの未来も進化するであろう業界の方向性や課題について、私の考え(歯科技工道)を交えながらお話しさせていただきたいと思います。

「歯科チームにおける共有と伝達」

近藤悠司、塚本継也

歯科補綴治療における審美的に高い成功基準には、歯冠部・歯周組織の移行部が調和すること。すなわち、自然な外観状態を保ち目立たないことが望まれる。

そのためには、天然歯がもつ様々な色調や形態・表面性状を再現することはもちろん、歯周組織の各名称・分類などの組織学的知識を熟知し、歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士が明確に情報を共有することで、同一のゴールを目指して果たすべき役割を担うことが可能となる。

今回、チェアサイドとラボサイドにおける歯周組織の共通認識を活かした日常臨床をご紹介します。